

小池グループ

小池先生を中心に昭和二十七年（一九五二年）に生まれた「松下村塾」は、原始共産主義的な共同体だった。「グループ・オブ・小池」から通

私の履歴書

司 憲 庵 久 栄
けん あん たく え

⑫

がなくなると食堂でメシが食えなくなるのでカポチャなどが役にたった。翻訳のために持ってきたデザインの本は、「これが文明の匂いだ」と言

って皆に見せびらかした。本を開くと印刷のよい香りがプーンと漂った。

GKの最初の仲間は岩崎信一と友達で、彼が偽学生だと知って一緒に遊び回った。

6人結集 大学と対立

パウハウス運動から影響

加、私を入れて六人が塊で活動した。当時、有楽町で詩を売っている人がいた。我々もそれに倣って、亡国のカリキ

ユラムだとか、デザイン科を新設せよなどと大学批判をトレーシングペーパーに書き青

図に焼いて、「デザインレポート」と題し、大学の正面玄関で一部二十円で売った。

環境全体の造形芸術を目指したパウハウス運動で、私に大きな影響を与えた。パウハウスの機能主義、それは芸大に重要な考え方だった。

その影響の下、芸大三年の芸術祭の時に「構成」というテーマセンターを制作した。



これで「図案科」にありと叫びたかった。というのも芸大では油絵とか日本画、彫刻の連中は威張っていて、サイドワークで金をうまく稼いでいるのは図案科だと言っていた。だから、「お前らに

また、ニューヨークの近代美術館（MOMA）の椅子のデザインのコンペで二等になったチャールズ・イームズの前衛的な椅子に刺激を受けた。便器みたいな形でガラス繊維を使っていたが、作品への関心と同時に、コンペは時代を作るための運動だということを知った。

称GK。授業が終わると皆が集まった。火がなくて寒い時、漏電を恐れて電気が切られている時など、先生が事務局とかけあい解決してくれた。

私が広島から持参したものはカポチャやサツマイモ、それにCIEの図案館で借りた油絵の具袋の先生など。油絵の具袋の先生など。油絵の具袋の先生など。